

地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会
第1回情報共有会合議事概要

1. 日時：平成27年5月26日15:00～17:00

2. 場所：札幌第1合同庁舎10F共用第1会議室

3. 出席者 24名

北海道運輸局、北海道開発局（7名）、北海道、札幌市（2名）、日本測量協会北海道支部、建設コンサルタンツ協会北海道支部、北海道GIS・GPS研究会（2名）、北海道GIS技術研究会（2名）、日本写真測量学会北海道支部、NPO法人Digital北海道研究会、北海道立総合研究機構地質研究所、北海道大学、国土地理院北海道地方測量部（3名）

4. 議事

(1) 情報共有会合について（設置の経緯 ほか）

(2) イベントカレンダーの運用について

(3) 人のネットワークづくり

(4) 話題提供

・産学官 CIM・GIS 研究会 2014 年度以降の活動経過と今後の展望（北海道 GIS・GPS 研究会、産学官 CIM・GIS 研究会）

・国土地理院からの話題提供（国土地理院北海道地方測量部）

(5) 情報共有会合で取り組む議題について（グループ討議）

(6) その他

5. 配付資料

(1) 事務局

・議事次第・主席者名簿

・地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会情報共有会合設立趣旨・設置要綱・平成26年度情報共有会合の実績

・イベントカレンダー

・国土地理院からの話題提供

(2) 関係団体

・産学官 CIM・GIS 研究会 2014 年度以降の活動経過と今後の展望（北海道 GIS・GPS 研究会、産学官 CIM・GIS 研究会）

・UAV 活用技術見学会／春期特別講演のちらし（日本写真測量学会北海道支部）

6. 議事概要

- (1) 事務局の国土地理院北海道地方測量部岩田次長より、情報共有会合の設立経緯と趣旨について、説明を行った。
- (2) 事務局（司会）から、情報共有会合の参加機関・団体が予定しているイベントを集約したイベントカレンダーについて説明し、引き続きイベント情報の提供の依頼を行った。
- (3) 3つのグループに分かれ、自己紹介を行った。
- (4) 話題提供として、北海道 GIS・GPS 研究会、産学官 CIM・GIS 研究会が、産学官 CIM・GIS 研究会の 2014 年度以降の活動と今後の活動予定及び研究テーマ等について説明した。国土地理院からは、地理院地図の追加情報及びマップシート、マップメーカーの改良について説明した。
- (5) グループ討議では、3 グループに分かれて情報共有会合で取り組む課題等について討議を行い、各グループより概要を報告した。

○A グループの報告概要

- ・道総研では環境アセスや地質などのいろいろな情報を公開したいが、公開を限定したい情報もある、ユーザーが使いやすい形式はどのような形式かなど、どうしたらよいか困っている。地理院地図を使った公開もあり得る。
- ・使う側の IT スキルの問題もあり、マニュアルを作って公開する必要がある。
- ・いろいろなソフトもあり、使うデータのマネジメントも必要。
- ・国土地理院の情報は業界標準的な形式だともっと使われると思われる。
- ・地理院地図はもっと宣伝が必要。
- ・災害の初動対応では紙出力を使うことも重要。時間がたてばデータベース化、デジタル化も必要となり、複合的に使うことが必要。
- ・札幌水害の際には地図に載せた情報が報道等で流れなかったがそのような情報があればよかった。
- ・避難計画、経路検索に使えるので、国土地理院は道路中心線データを公開してほしい。
- ・最終的には IT スキルと地理院地図の普及、教育が必要。小学校から先導し、公共機関のパソコンにはプリインストールするくらいになってほしい。

○B グループの報告概要

- ・位置情報がすぐ入力できる、音声入力から表示するなど、ここにいる情報をアイコン表示できるといい。また、スマホからデータ入力や保存ができ、産業に使えるなど、みんなが地理空間情報を活用しやすい環境になるとよい。ただし、何でもできると複雑になるので仕組みは考える必要がある。
- ・公共機関の間ではデータ共有がされていない。共有されれば災害時に相互利用できるが、データの管理や配信の責任は誰が指揮をとるか、データセンターを立ち上げるとしても、誰が維持管理の経費を出すかなど問題がある。

- ・デジタルとアナログの併用を考える必要がある。お年寄りや子供も使えることを考えて地理空間情報を作らなければいけない。

○C グループの報告概要

- ・GIS の技術者はいるが、例えば導入にあたって管理、監督、設計などのマネジメントをする人がいない。
- ・技術者が減少しており、人材育成や技術の継承が必要。
- ・人材育成について、次回以降議論してもいいのでは。
- ・GIS の技術はどこでどう学べるのかがよくわからない。官民で学習できる環境を整備する必要がある。
- ・エンドユーザーにとって GIS を意識せずにいつの間にか使っているような状況がよい。

(6) その他

- ・次回の会合は7月最終週を予定。テーマの案は、「観光・農業など産業面における2次元、3次元のG空間情報技術の利活用について」を予定。
- ・日本写真測量学会北海道支部より、春期特別講演について案内を行った。